

平成 27 年度 校内研修（究）計画書

十和田市立北園小学校

1 学校の教育課題

(1) 教育目標

先人の開拓精神に学び、郷土の発展に寄与する人間の育成に努める

創造力があり、未知を切り開く子ども (かしこく)

情操豊かで、意志の強い子ども (やさしく)

体が健康で、たくましい子ども (たくましく)

(2) 目標達成上の課題

(かしこく)

① 基礎学力，基礎的・基本的内容の定着

② 思考力・判断力・表現力等の育成

③ 学習環境づくりと学習習慣の確立

(やさしく)

① 思いやりの心の育成

② 基本的生活習慣の定着

③ 児童の成長・変容を図る工夫

(たくましく)

① 健康を保持増進の態度・習慣の育成

② 基礎的な体力・運動能力の向上

③ 危機回避能力の育成と安全行動

2 本年度の研究計画

(1) 研究主題

しっかりと自分の考えをもち，表現できる子の育成

～算数科における「活用する力を高める」授業づくりをとおして～

※「しっかりと自分の考えをもち」とは…

①既習事項をもとに自分なりの解決方法をイメージし ②根拠を明らかにしながらノートやワークシートに書き表すこと。

※「表現できる」とは…

書き表した自分なりの解決方法を ③相手に分かりやすく伝えること。

※「活用する力を高める授業」とは…

本校がとらえる「活用する力」を上記①～③とし、「既習と未習が明確になるような問題提示」「情景をとらえるためのICT機器等活用による視覚化」「既習の再確認と未習への関連付けをもたせる視点提示」「手本となるノートの書き方例提示」「言葉や式，図，表，グラフなどの書き方指導」「説明のパターン例提示」などの工夫を授業で仕掛けていくこと。

(2) 主題設定の理由

① 学習指導要領との関連

学校教育法第30条の第2項では、学力の重要な3つの要素として、「①基礎的・基本的な

知識・技能 ②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等 ③主体的に学習に取り組む態度」を強調している。また、学習指導要領「総則」の「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」では、「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能を図る学習活動を重視するとともに、言語環境を整え、言語活動の充実を図ることに配慮する」ことが述べられている。

さらに、学力に関する各種調査の結果では、日本の子どもたちの思考力・判断力・表現力等には依然課題があることが報告され、言語を通じた学習活動を充実させることにより、「思考力・判断力・表現力等」の育成が効果的に図られることが述べられている。

「思考力・判断力・表現力等の育成」は、本校の教育目標達成上の課題の一つでもある。個を高め合い、お互いが学ぶ喜びを実感し、成就感を味わえる魅力ある学習が成立するためには、「思考力・判断力・表現力等」の向上が重要となる。そこで、「しっかりと自分の考えをもち、表現できる子の育成」を主題とし、本研究に取り組むことで、学校目標の課題解決につながると考えた。

② 児童の実態、学校や地域の課題との関連

本校の児童は、明るく素直で何事にも前向きに一生懸命取り組む子どもが多い。「マナー日本一」を合言葉に、あいさつや廊下歩行にも力を入れ、学校内外での生活態度向上へも積極的に取り組んでいる。また、学力向上をめざし平成20年度から始まった「学びたいム」や「家庭学習ガイド」の取組の成果として、学力検査等の分析では、全学年・全教科においてほぼ全国平均を上回っている実態がある。基礎基本の確実な定着がうかがわれる一方で、数値的な課題をあげるとすれば、全国学力・学習状況調査B問題の伸びが少なく、特に「記述式」に関しては、他観点より低く、全国的な傾向と同様である。

平成25年度に受賞した、「優れた『地域による学校支援活動』文部科学大臣賞」は、本校と地域社会との強い信頼関係が認められた結果であった。協力的な地域・PTAの支援を受け、学校内外においても、奉仕活動やあいさつ声掛け運動、登下校の見守りなど、児童を支援する体制が整っている。家庭学習や学習支援ボランティアなどへの取組も理解し、教育に熱心な地域・保護者であるゆえ、子どもたちも落ち着いて学習に取り組む環境にある。

③ これまでの研究の成果と課題との関連

本校では、平成21年度の「放送教育研究大会」に向けた研究から数年間「対話する力」の育成に焦点を絞って取り組んできた。「話合いの視点」や「身に付けさせたい話合う力」を明確にしながら交流活動に取り組んできた結果、教師も児童も日常的に意識しながら授業実践できるようになった。また、平成23～24年度は、パナソニック教育財団の実践研究助成を受け、「論理的な思考力を育てるためのICT機器の活用のあり方」を研究してきた。パソコンや電子黒板、プロジェクター、実物投影機といった機器に加え、iPadやApple TVといった最新機器を活用し、効果を上げてきた。

しかし、教師側の反省としては、学んだことをそのまま覚えたり、繰り返し練習で身に付けたりすることは得意であるが、新しい考えを生み出したり、自己主張をしたりすることに関しては、まだ苦手としている子が少なくないという意見もある。

昨年度からは、パイロット教科を算数科に絞り、より意欲的な学習ができる子を育てるために、「活用する力をはぐくむ」ことを関連づけながら、思考力・表現力の育成を目指してきた。今年度は昨年度の反省を生かし、「活用する力」のポイントを明確にし、具体的手立てを意識しながら授業に生かしていくことが大切と考え、研究に取り組むこととした。

(3) 研究目標

しっかりと自分の考えをもち、表現できる子を育てるためには、問題把握・自力解決・全体交流の場面を通して、活用する力が高まるような仕掛けを工夫していくことが有効であることを、算数科の授業実践において明らかにする。

(4) 研究仮説

仮説1 問題把握・自力解決の段階において、「既習をもとに解決方法をイメージさせる」「根拠を明らかにしながらノートやワークシートへ記述させる」工夫を行うことによって、課題解決へ向けた自分の考えをもつであろう。

仮説2 全体交流の段階において、「相手に分かりやすく伝えさせる」工夫を行うことによって、相手意識をもって表現できる子が育つであろう。

(5) 仮説の検証に向けて

- ① 検証授業において、仮説に関する手立てが適切だったかどうか検討する。
- ② 抽出児童の普段の様子と検証授業での様子の違いを観察し、仮説に関する手立てが適切だったかどうか検討する。
- ③ 5月と12月に「思考力・表現力」に関する記述式テストを実施し、その変容を比較・検討する。
- ④ CRT等各種調査において、「数学的な考え」の観点の変容を検討する。
- ⑤ 「学びたいム」や「朝自習」の時間に、「活用する力に関する記述式問題」などを行い、本研究主題育成への足場づくりとする。

【授業の指導過程】

	活用する力	主な学習内容 ・支援	発問例
I 問題把握	① 既習事項をもとに解決方法をイメージする力	<p>1 教材や学習問題との出会い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味、関心をひきつけるような教材提示や課題設定 ・視覚化（図、写真、動画）の問題提示 ・課題意識の持たせ方の工夫（ねらい、条件整理、関係把握） ・発達段階に応じた提示に工夫（部分と全体、文章と説話、情景画と実演） ・これまでの学習で似たもの、違うものへの気づかせ <p>2 見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求めるために何が必要か、求め方や材料を選び、理由、根拠の提示 ・既習事項のこの考えを「できそうだ」と思える見通しのもたせ方 	<ul style="list-style-type: none"> ・様子を思い浮かべながら読んでみよう ・聞かれていることは ・わかっていることは ・どんな関係になっているか ・これまでの学習で似たものはありましたか ・今までの学習と何が違うでしょう ・どのようにしたらできるでしょう ・答えはどのくらいになるでしょう ・何が分かるとできるでしょう

		<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの解決方法を、ペアやグループで交流させる ・見当をつけさせたり、仮定させたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習で使いそうなことはありませんか
Ⅱ 自力解決	力 ②根拠を明らかにしながら書き表す	3 自力解決する <ul style="list-style-type: none"> ・既習の図やグラフ、表などを用いて、問題場面を整理して考えさせる ・選び出した数や言葉を、適切な筋道で組み合わせる ・実物、絵、半具体物、図、グラフ、文字、記号などを用いての解かせ方 ・つまづいている子へのヒントの出し方、具体物等の準備 ・わかりやすいワークシートの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考え方でやってみよう ・図に描いても、実際に試してみてもよいです ・線分図や表などを用いて分かりやすく書きましよう
Ⅲ 全体交流	る力 ③相手に分かりやすく伝える	4 全体での学び合い <ul style="list-style-type: none"> ・解決方法について話し合いの形態 ・多様性の認め合い ・自分の考えを説明するための言葉や式、図、表、グラフなどの使用 ・順序立てて考えを示すための、話す順番や指示語の使用 ・同類の考え方のグルーピング 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように考えたか、発表しよう ・どこを直せばよくなるでしょう ・どれとどれが似た考え方でしょう ・どれが良いでしょう
Ⅳ まとめ		5 まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・比べさせ、順序よく整理させ、補完させる ・簡単で、分かりやすいのはどれか ・分かったことを、算数の用語を使ってまとめさせる ・いつでも使えるようにまとめさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・これらからどんなことが分かるでしょう ・似ていることをまとめるとどんなことがいえますか ・他のことにもあてはまりますか
Ⅴ 適用		6 確かめる <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題、発展問題、応用問題を解く 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した考え方をを使って、問題を解いてみよう

(6) 研究日程

	月 日	内 容	方法	教科領域	要請指導主事
1	4月6日 (月)	前年度の研究の概要説明と今年度の研究の方向性確認	全体協議		
2	4月10日 (金)	研究主題・目標・仮説・検証方法・研究日程について	全体協議		
3	4月17日 (金)	指導案の様式、めざす児童像の設定、実態調査の項目の検討	全体協議		
4	5月13日 (水)	検証授業の指導案検討会計画、各検証授業の課題の共有・指導確認、分科会のもち方確認	全体協議		

5	5月29日 (金)	校内研修計画書の最終確認	全体 協議		
6	6月10日 (水)	5学年検証授業 授業者 高橋 誠	全体 協議	算数	十和田市教育委員会 指導主事 谷口 実 先生
7	6月19日 (金)	指導案検討会①	各学年		
8	7月8日 (水)	4学年検証授業 授業者 江渡 富貴子	全体 協議	算数	上北教育事務所 主任指導主事 太田 浩之先生
9	7月17日 (金)	2学年検証授業 授業者 齋藤 友子	全体 協議	算数	十和田市立ちとせ小学校 教頭 繁在家 康文先生
夏季休業中		指導案作成			
10	8月5日 (水)	指導案検討会②	各学年		
11	8月18日 (火)	指導案検討会③(1・2年)	ブロック 協議		十和田市立ちとせ小学校 教頭 繁在家 康文先生
		指導案検討会③(5・6年)	ブロック 協議		十和田市教育委員会 指導主事 谷口 実 先生
	8月21日 (金)	指導案検討会③(3・4年)	ブロック 協議		上北教育事務所 主任指導主事 太田 浩之先生
12	8月28日 (金)	指導案検討会④(全体)	全体 協議		
13	9月4日 (金)	指導案検討会⑤(ブロック)	ブロック 協議		
14	9月9日 (水)	指導案・要項最終確認(完成)	全体 協議		
15	9月18日 (金)	発表会打合せ	全体 協議		
16	9月30日 (水)	検証授業準備①	各学年		
17	10月2日 (金)	検証授業準備②	各学年		
18	10月7日 (水)	学習指導研究会準備	全体		
19	10月8日 (木)	十和田市学習指導研究会 1学年授業者 築場 茜 2学年授業者 加賀 千裕 3学年授業者 須郷 夏絵 4学年授業者 奈良 琢磨 5学年授業者 小林 忠輝 6学年授業者 常田 幸宣	ブロック 協議	算数	十和田市立ちとせ小学校 教頭 繁在家 康文先生 上北教育事務所 主任指導主事 太田 浩之先生 十和田市教育委員会 指導主事 谷口 実 先生
20	10月9日 (金)	学習指導研究会後片付け	全体		

21	10月30日 (金)	中間反省会 ・研究会反省（成果と課題） ・課題についての改善策検討	全体 協議		
22	11月20日 (金)	今年度の研究の評価方法	全体 協議		
23	2月3日 (水)	今年度の研究の反省 次年度の研究の方向付け①	全体 協議		
24	3月4日 (金)	次年度の研究の方向付け②	全体 協議		

3 研修計画

(1) 研修の重点

- ① 教育活動をより良いものにできるような専門的な知識や技能を身に付ける。
- ② 先進的な研究に取り組んでいる学校の情報を，全教職員で共有する。

(2) 研修日程

	月日	内 容	方法	教科 領域	要請指導主事等
1	5月15日 (金)	一般研修① 師範授業研修	全体 講義	国語	校内講師 校長 水口 宏
2	1月13日 (水)	一般研修② 教育相談の考え方	講義 実技	教育 相談	校内講師 教諭 小林 忠輝
3	1月20日 (水)	各種研修会等報告会 1	報告	各教科	報告者：1月までの県外研 修の派遣者
4	3月4日 (金)	各種研修会等報告会 2	報告	各教科	報告者：3月までの県外研 修の派遣者

本主題での研究 2年目		研究教科等	算 数
研修主任	高 橋 誠	研究指定の 有無	①・無 十和田市小学校学習指導研究会 指定期間 平成26年度～平成27年度 (平成27年度 公開発表)